

2 (2) その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。(※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

#### 特筆すべき教育活動

「(1) ①特色ある教育GP等の採択状況と取組」で示した日本学術振興会「アジア研究教育拠点形成事業」以外に、異分野融合研究教育を推進するため、内外の最先端研究者が若手研究者を対象にそれぞれの研究成果報告や研究動向などをわかりやすく講義するインフォーマルセミナーを実施している。平成19年度は計7回のセミナーを実施し、145名が参加している。

#### 特筆すべき研究活動

1. 半導体、材料科学、生命科学分野で先端学際科学研究を推進した結果、ISI Citation 数は、2007年だけの集計で150を超えている専任教員は8名中3名(最高は721)。トータル集計で1000を超えている教員も3名になっている(最高は5514)。
2. 2007年のISI対象論文への掲載は、専任教員8名の合計で43報であった。
3. 10件の国際会議の招待講演を2007年に行なった。
4. 平成19年度に1件の新聞発表を行った。
5. 平成18年4月～平成21年3月まで「窒化物半導体デバイス基盤技術」寄附研究部門(寄附額:5千万円/年、日本企業3社、韓国企業2社)を設置するとともに、東北テクノアークを幹事会社として、上記寄附研究部門への出資会社を会員とする「ケミカルリフトオフ技術基盤活用コンソーシアム」を設立し、先端窒化物半導体基板技術の産学連携による研究開発を進めている。なお、外国企業による寄附研究部門設置は、東北大学としては初めてである。

#### 特筆すべき社会貢献活動等

1. 6件の国際会議の主催・企画・運営を2007年に行なった。
  2. 18件の産学官連携研究を平成19年度に実施した。内訳は、産学官共同研究は3件、企業との共同研究(寄附金を含む)は15件であった。
- また、上記の内、准教授が受入教員となった件数は6件であった。